

発行 昭和49年7月3日(水)
発行所 長野県伊那北高等学校
刊行 委員会
発行人 若林 輝彦
編集人 若城 倉仙
印刷所 合資会社 中山印刷所

新緑新聞

思想への憧憬の必要性

生徒会長 伊藤 聡
先ず全てのヴェイジョンを拒否しよう
思想への憧憬こそ、僕は撰択にせられる。その選の解放に置いていた故として保つてきたのだ。話「イデオロギー喪失」とは若者が若者として存在し得る所以だと考へる。これは若者の第一義的な属性が自己主張という点に有り、そのために自分自身の確立の意識的にかつ内からの要請として奔出するからである。そのとき、僕は初めて意識として外的状況を抱え、それと対峙する。思想は、僕達がこの対峙の時点から自ら身を何処に位置づけるかによって、自由に選択され自動的に個人の中に行動の核として組み込まれる。即ち、高橋和己の言葉を引用すれば「私達は、人間のさまざまな単位、どの単位を自分の准拠軸と考へるかの一個の問題」、即ち「自我

思想への憧憬こそ、僕は撰択にせられる。その選の解放に置いていた故として保つてきたのだ。話「イデオロギー喪失」とは若者が若者として存在し得る所以だと考へる。これは若者の第一義的な属性が自己主張という点に有り、そのために自分自身の確立の意識的にかつ内からの要請として奔出するからである。そのとき、僕は初めて意識として外的状況を抱え、それと対峙する。思想は、僕達がこの対峙の時点から自ら身を何処に位置づけるかによって、自由に選択され自動的に個人の中に行動の核として組み込まれる。即ち、高橋和己の言葉を引用すれば「私達は、人間のさまざまな単位、どの単位を自分の准拠軸と考へるかの一個の問題」、即ち「自我

長き心しい冬の中で春を待つ心をいららしながら持ちつづけたことと今新緑の中に新しく思い返している。あきびし冬の寒さに耐えて今ももろの樹々草々が萌えて茂り、咲いて散っていく。この自然のたすまいに思ふことは、活力あふれる新緑の前提としての「耐える」としてある。どんなきびしい試練にさいなまれても咲くべき時は咲き、散るべき時は散っていく。彼等は耐えることで自己を完成することを知っている。自然の摂理である。

新緑に思ふ

春を待つ心をいららしながら持ちつづけたことと今新緑の中に新しく思い返している。あきびし冬の寒さに耐えて今ももろの樹々草々が萌えて茂り、咲いて散っていく。この自然のたすまいに思ふことは、活力あふれる新緑の前提としての「耐える」としてある。どんなきびしい試練にさいなまれても咲くべき時は咲き、散るべき時は散っていく。彼等は耐えることで自己を完成することを知っている。自然の摂理である。

耐えることの中に彼等は消極的な志向を望むのではなくてむしろ内面は積極的に自己完成の軌跡を見つめている。この耐えるは、機をえらみ、望みをもち、希望、理想に高められる。人間の生涯は耐えることと連続であるとも言える。お互いの生々まの望みのあふれ、追求め、自己の表現も他人の存在も重視することになる。

春季運動クラスマッチ

Table with 3 columns: 3F (Basketball, Volleyball, Badminton), 優 (Winner), 勝 (Winner). Lists results for various sports and classes.

井蛙

日本には、幸か不幸か四季の変化が激しい。日本は四季の変化に富んだ国は、まずはなないだろうか。そして、世界で一番四季の変化のある国といつても過言ではない。僕は、このように思ふ。そして、誇りを持っている。そして、誇りを持っている。

井蛙
日本には、幸か不幸か四季の変化が激しい。日本は四季の変化に富んだ国は、まずはなないだろうか。そして、世界で一番四季の変化のある国といつても過言ではない。僕は、このように思ふ。そして、誇りを持っている。そして、誇りを持っている。

修学旅行 古都を訪ねて

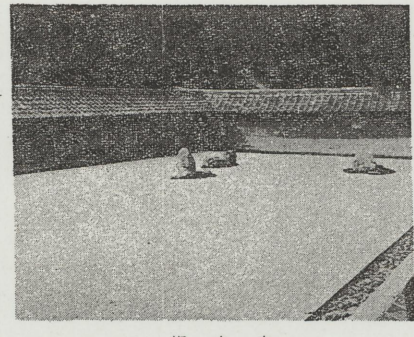
きょうと 高田彰

を通してみやると、真紅の太陽が我々の期待に答えるごとく顔を現わした。こうして第一日は明けたのである。

第一日目の予定は、醍醐寺・智積院・大徳寺・旅籠へ入館したのである。一番印象に残っている醍醐寺について紹介しよう。

醍醐寺では、三寶院、五重塔などが見学場所であったのだが、三寶院の庭園は特にすばしかった。この庭園は太閤秀吉が竹田梅松軒に頼り命じ自らからさし築造した豪華な名石が取り入れられ、有名な聚楽第から移されたものもあり、とにかく桃山時代の豪華な気分を感じることが出来た。次に国宝五重塔を紹介しよう。

「醍醐寺五重塔」は醍醐天皇の御冥福を祈るため建てられたものであり、九十五年に完成し、京都府下最古の建造物といわれている。オレは美しく澄んだ空のもとこの五重塔を撮影した。



龍安寺

大仙院へ回り、二日間にわたる宿となる加茂川新館へ入館したのである。さて第二日の目的？である京都の夜について語ろう。

夕食も割合に... であらね、オレ達は意気揚々と夜の東京極へ出て行って、けだろが... 通りはア...

龍安寺と聞けば、ああ、あの有名な石庭のある寺かと思われ、我々がここに着いたのは夕暮が近づいた頃であつたので、今日一日がこれだけで終わるかと考えたら、寂しく、センチメンタルな繁華街をうろつてきた。

繁華街をうろつてきた。商品一つ一つ吟味してきたが、安くよい品を見つけたのは、容易ではない。その夜、テレビを見ていたら、ビュティフル・マリリアンという女性が、音楽リッパンとて、体を歌手にしては大胆にうららうはじめていた。近頃の歌手は、いろいろなことをすると思つて、漫然と見ていたら、次に衣服を脱ぎ始めたのは同室の全員まじり、さういふ場面の登場を期待していたが、無駄に終わった。そのまゝ、ふてくされて寝た。

我々の部屋の電気が「一番早く消えたようだ。というの、不運？」にEの真面目グループと一緒に行動したから、彼らは明日の自由行動のため、ひたすら活力を蓄えようとしていた。時が過ぎて次の日になった。朝の新鮮な空気を胸一杯すった。自由行動の日であるが、紙面上の都合により、唐招提寺のことを書く。

唐招提寺へは我々が一番乗り。前門は閉じていた。しばらく写真をとったり話をしているうちに、気持ちにたどられた。しかし夕映の中に浮かんだ東の塔は雄大で本当に美しい。この塔は徳川家光により再建された、一六四四年に完成されたもので、日本一高く、高さ約五七メートル、屋根の相輪の重さは約六・五トンある。そこから眺めて、美しくさすがに堂々としていた。

三日目の日程は、三十三間堂・寂光院・国際会館・京都国立博物館の順にいろいろの所へ行つたが、後輩の諸君に、印象づけられたのは、吾輩は嵯峨野を鷹や、三十三間堂と寂光院で、あそこをぶらぶらとあつた。この説明は、省略する。

追伸、ちよつと言ひ忘れたけれど、「京言葉」について、ほな、きいてね。

「二日目」は、全員が五〜六の間の女性的な山、それと古い家を見ているうちに自分が、聖武天皇の頃の人間であるような錯覚に陥つたのである。さて平城京跡によって、歩いてはならない。速いので張り合ひがなくなつたのか、眠くなつたのか、だんだんやらなくなつてきた。

バスから降りて淨瑠璃岩崎へ歩いて寺道止まされたという意味で、止まっていたトランプに離れ、胃の中のもの、のどまであがってきつて、成人式と酒の関係に似ている。だが教師が何と怒らなかつたか、眠くなつたのか、だんだんやらなくなつてきた。

バスから降りて淨瑠璃岩崎へ歩いて寺道止まされたという意味で、止まっていたトランプに離れ、胃の中のもの、のどまであがってきつて、成人式と酒の関係に似ている。だが教師が何と怒らなかつたか、眠くなつたのか、だんだんやらなくなつてきた。

「二日目」は、全員が五〜六の間の女性的な山、それと古い家を見ているうちに自分が、聖武天皇の頃の人間であるような錯覚に陥つたのである。さて平城京跡によって、歩いてはならない。速いので張り合ひがなくなつたのか、眠くなつたのか、だんだんやらなくなつてきた。

繁華街をうろつてきた。商品一つ一つ吟味してきたが、安くよい品を見つけたのは、容易ではない。その夜、テレビを見ていたら、ビュティフル・マリリアンという女性が、音楽リッパンとて、体を歌手にしては大胆にうららうはじめていた。近頃の歌手は、いろいろなことをすると思つて、漫然と見ていたら、次に衣服を脱ぎ始めたのは同室の全員まじり、さういふ場面の登場を期待していたが、無駄に終わった。そのまゝ、ふてくされて寝た。

我々の部屋の電気が「一番早く消えたようだ。というの、不運？」にEの真面目グループと一緒に行動したから、彼らは明日の自由行動のため、ひたすら活力を蓄えようとしていた。時が過ぎて次の日になった。朝の新鮮な空気を胸一杯すった。自由行動の日であるが、紙面上の都合により、唐招提寺のことを書く。

唐招提寺へは我々が一番乗り。前門は閉じていた。しばらく写真をとったり話をしているうちに、気持ちにたどられた。しかし夕映の中に浮かんだ東の塔は雄大で本当に美しい。この塔は徳川家光により再建された、一六四四年に完成されたもので、日本一高く、高さ約五七メートル、屋根の相輪の重さは約六・五トンある。そこから眺めて、美しくさすがに堂々としていた。

三日目の日程は、三十三間堂・寂光院・国際会館・京都国立博物館の順にいろいろの所へ行つたが、後輩の諸君に、印象づけられたのは、吾輩は嵯峨野を鷹や、三十三間堂と寂光院で、あそこをぶらぶらとあつた。この説明は、省略する。



日本史の教科書を手にとって最初のページから見てゆくと、大和朝廷の記述以後、舞台が奈良周辺にある時代がしばらく続くのに気がつくであろう。七百九十四年、平安京に遷都されるまで、わづかこれを語らして日本を語りつづける者、聖徳太子、聖武天皇など寺院が結びついている。

学校当局の服装は地味なもの、特に学生服が好ましくない、というお達しを無視して、ほとんどの男子はブレザー着用であった。電車内では、さきさき前日まで禁止されていたトランプに離れ、胃の中のもの、のどまであがってきつて、成人式と酒の関係に似ている。だが教師が何と怒らなかつたか、眠くなつたのか、だんだんやらなくなつてきた。

バスから降りて淨瑠璃岩崎へ歩いて寺道止まされたという意味で、止まっていたトランプに離れ、胃の中のもの、のどまであがってきつて、成人式と酒の関係に似ている。だが教師が何と怒らなかつたか、眠くなつたのか、だんだんやらなくなつてきた。

繁華街をうろつてきた。商品一つ一つ吟味してきたが、安くよい品を見つけたのは、容易ではない。その夜、テレビを見ていたら、ビュティフル・マリリアンという女性が、音楽リッパンとて、体を歌手にしては大胆にうららうはじめていた。近頃の歌手は、いろいろなことをすると思つて、漫然と見ていたら、次に衣服を脱ぎ始めたのは同室の全員まじり、さういふ場面の登場を期待していたが、無駄に終わった。そのまゝ、ふてくされて寝た。

我々の部屋の電気が「一番早く消えたようだ。というの、不運？」にEの真面目グループと一緒に行動したから、彼らは明日の自由行動のため、ひたすら活力を蓄えようとしていた。時が過ぎて次の日になった。朝の新鮮な空気を胸一杯すった。自由行動の日であるが、紙面上の都合により、唐招提寺のことを書く。

唐招提寺へは我々が一番乗り。前門は閉じていた。しばらく写真をとったり話をしているうちに、気持ちにたどられた。しかし夕映の中に浮かんだ東の塔は雄大で本当に美しい。この塔は徳川家光により再建された、一六四四年に完成されたもので、日本一高く、高さ約五七メートル、屋根の相輪の重さは約六・五トンある。そこから眺めて、美しくさすがに堂々としていた。

三日目の日程は、三十三間堂・寂光院・国際会館・京都国立博物館の順にいろいろの所へ行つたが、後輩の諸君に、印象づけられたのは、吾輩は嵯峨野を鷹や、三十三間堂と寂光院で、あそこをぶらぶらとあつた。この説明は、省略する。

追伸、ちよつと言ひ忘れたけれど、「京言葉」について、ほな、きいてね。

なら

た。そうこうしているうちに、京都駅に着いた。そこから奈良までバスなのだが、バスの車掌がなんとなかどかこのパールのマダムのように思えるほど厚化粧をしていたのを見て、いっつと車中の人であった。良を特徴づけるような丸み

さそうである。もともと僕らはこんな部屋には泊まらないのだが、次回何かの泊りに来たことがなごころに泊まるであろう。さて我々の一番安い部屋に泊まったのである。わしらのような田舎人には、満足してこの飯をかきこんで、さういふ話をしていっているうちに、

繁華街をうろつてきた。商品一つ一つ吟味してきたが、安くよい品を見つけたのは、容易ではない。その夜、テレビを見ていたら、ビュティフル・マリリアンという女性が、音楽リッパンとて、体を歌手にしては大胆にうららうはじめていた。近頃の歌手は、いろいろなことをすると思つて、漫然と見ていたら、次に衣服を脱ぎ始めたのは同室の全員まじり、さういふ場面の登場を期待していたが、無駄に終わった。そのまゝ、ふてくされて寝た。

我々の部屋の電気が「一番早く消えたようだ。というの、不運？」にEの真面目グループと一緒に行動したから、彼らは明日の自由行動のため、ひたすら活力を蓄えようとしていた。時が過ぎて次の日になった。朝の新鮮な空気を胸一杯すった。自由行動の日であるが、紙面上の都合により、唐招提寺のことを書く。

唐招提寺へは我々が一番乗り。前門は閉じていた。しばらく写真をとったり話をしているうちに、気持ちにたどられた。しかし夕映の中に浮かんだ東の塔は雄大で本当に美しい。この塔は徳川家光により再建された、一六四四年に完成されたもので、日本一高く、高さ約五七メートル、屋根の相輪の重さは約六・五トンある。そこから眺めて、美しくさすがに堂々としていた。

三日目の日程は、三十三間堂・寂光院・国際会館・京都国立博物館の順にいろいろの所へ行つたが、後輩の諸君に、印象づけられたのは、吾輩は嵯峨野を鷹や、三十三間堂と寂光院で、あそこをぶらぶらとあつた。この説明は、省略する。

追伸、ちよつと言ひ忘れたけれど、「京言葉」について、ほな、きいてね。

埋橋徹

さそうである。もともと僕らはこんな部屋には泊まらないのだが、次回何かの泊りに来たことがなごころに泊まるであろう。さて我々の一番安い部屋に泊まったのである。わしらのような田舎人には、満足してこの飯をかきこんで、さういふ話をしていっているうちに、

繁華街をうろつてきた。商品一つ一つ吟味してきたが、安くよい品を見つけたのは、容易ではない。その夜、テレビを見ていたら、ビュティフル・マリリアンという女性が、音楽リッパンとて、体を歌手にしては大胆にうららうはじめていた。近頃の歌手は、いろいろなことをすると思つて、漫然と見ていたら、次に衣服を脱ぎ始めたのは同室の全員まじり、さういふ場面の登場を期待していたが、無駄に終わった。そのまゝ、ふてくされて寝た。

我々の部屋の電気が「一番早く消えたようだ。というの、不運？」にEの真面目グループと一緒に行動したから、彼らは明日の自由行動のため、ひたすら活力を蓄えようとしていた。時が過ぎて次の日になった。朝の新鮮な空気を胸一杯すった。自由行動の日であるが、紙面上の都合により、唐招提寺のことを書く。

唐招提寺へは我々が一番乗り。前門は閉じていた。しばらく写真をとったり話をしているうちに、気持ちにたどられた。しかし夕映の中に浮かんだ東の塔は雄大で本当に美しい。この塔は徳川家光により再建された、一六四四年に完成されたもので、日本一高く、高さ約五七メートル、屋根の相輪の重さは約六・五トンある。そこから眺めて、美しくさすがに堂々としていた。

三日目の日程は、三十三間堂・寂光院・国際会館・京都国立博物館の順にいろいろの所へ行つたが、後輩の諸君に、印象づけられたのは、吾輩は嵯峨野を鷹や、三十三間堂と寂光院で、あそこをぶらぶらとあつた。この説明は、省略する。

追伸、ちよつと言ひ忘れたけれど、「京言葉」について、ほな、きいてね。

追伸、ちよつと言ひ忘れたけれど、「京言葉」について、ほな、きいてね。